

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第1回弘前市社会福祉問題対策協議会
開 催 年 月 日	令和7年5月19日（月）
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時 30分 から 15時 00分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	中村 直樹
出 席 者	会長 中村 直樹 委員 小川 幸裕 委員 崎野 雅生 委員 大湯 恵津子 委員 三上 美知子 委員 引間 由実子 委員 阿保 博実 委員 稲村 孝司 委員 森山 正 委員 小林 雅也 委員 櫻庭 仁明 委員 山形 勝彦 委員 金枝 れう子
欠 席 者	委員 坂本 祥一 委員 鈴木 勝男
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	福祉部長 秋田 美織 福祉総務課長 高屋 憲 同課長補佐 金川 浩人 同主幹兼係長 滝口 龍之介 同主査 館山 怜子
会 議 の 議 題	・組織会 ・国庫補助事業「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」対象事業への評価・意見について ・生活困窮者自立支援制度について
会 議 結 果	別紙会議録のとおり

会議資料の名称	令和7年度第1回弘前市社会福祉問題対策協議会資料
会議内容 (概要)	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 福祉部長挨拶 4. 組織会 中村 直樹 委員を会長にとの推薦があり、全会一致で決定。 中村委員より、会長職務代理者として、坂本 祥一 委員を指名。 5. 協議 (1) 国庫補助事業「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」対象事業への評価・意見について
事務局	案件（1）資料に基づき、対象事業については国庫補助事業の実績報告において、第三者評価が求められていること、また、各委員からの評価シートをまとめることで協議に代えることを説明。 ※まとめた評価シートは別添のとおり
委員	【主な意見・質疑応答】 ●民生委員等活動支援事業 ・自分の町会では、次の民生委員児童委員（以下、「民生委員」という。）になる人が民生委員協力員となり、一緒に活動している。特に見守り活動と敬老大会などで非常に活躍しており、助かっている。
議長	・民生委員については、継続して成り手が不足しているという問題がある。このサポートの部分についてはこれからと感じる。
委員	・民生委員の地区は小学校区か。民生委員は町内単位で決まるのか。
事務局	・概ね小学校区を基準に26地区で分けている。その地区の中で複数の町会で民生委員が1人、それに協力する形で民生委員協力員が配置されている。

委 員	・（次の弘前市社会福祉協議会除雪支援事業について）二大地区で実績がゼロであるが、一大・二大地区の小学校統合の影響はあるのか。
事務局	・一大・二大地区の小学校統合はあったが、民生委員の地区としては二大地区は存在しており、この地区での実績はゼロとなっている。
委 員	・全国的に民生委員が不足しており、この協力員制度は非常にいい施策だと思うが、民生委員の成り手がなぜいないのか学区や町内地域での原因究明はされているのか。
事務局	・地区によって様々な理由があるが、仕事をされていたり、地域福祉に携わるということから離れていたりする方が多かったりということが理由かと思う。 - それから、少子高齢化しており若い方があまり住んでいない地域では、民生委員が高齢化してそのまま継続しているという事例もある。 - 令和7年度からは、地区における民生委員の自薦制度を導入している。担い手不足を補えればと思っている。
委 員	・P T A活動は、地域とのつながりの最初のように感じている。P T A活動が廃止されている学校があると聞くが、どのような状況か。
事務局	・P T A活動の状況までは把握はしていないが、以前の会議でも保護者の方にアプローチしてはどうか、という意見をいただいております、今年度からはP T A活動に方々に声をかけていきたいところではある。
委 員	・P T A活動についてデメリットばかり言われるが、そうではないということをもう少しアピールすればいい。若い人は忙しいからダメだよね、で終わらず、どんなに忙しくてもやれるように、何かいい施策があればいいと思う。
委 員	・昔と違い、保護者も忙しいところではある。 - 実際、民生委員活動をしているが、異性の自宅に行くには気を遣うところがあり、同性の民生委員協力員が行ったりするこ

委 員	とができるなど、協力してできるのでいい制度だと思った。 ・民生委員協力員の活動は非常に助かっている。 民生委員が困っているのは、家に入れてくれないなどのコミュニケーション。そういった部分もあって成り手不足になっている。 それを若いたちに人伝えていくため、町会でもいろいろな場面で民生委員にならないかと話をしている。
議 長	・民生委員の話から派生して、PTAや町内会の組織の中での話などが出た。さまざまな制度・仕組み、メンバーの垣根を越えてつながっていかなければならない、そういう時代に入ってきていると思う。どのように関わっていけばよいか、引き続き協議していきたい。 ●弘前市社会福祉協議会除雪支援事業 弘前市社会福祉協議会所属の委員から事業説明。
委 員	・高齢化していくと大変であるが、身体障がい者は障がいの部分でも進んでくる。今冬の雪は本当に大変だった。 ボランティアは時間の都合もあり頼みにくいと感じるところもあったが、こういう制度があれば利用したい、他の人たちにも伝えたいと思った。
議 長	・朝雪かきをしていると自然と近所の人とあいさつなどの会話が生まれることがある。こうしたことで、近所の人に興味が沸き、また次会ったときにあいさつするようになる。今まで以上にこうした地域づくりが大切になってくると感じる。 ●ほのぼのコミュニティ21推進事業 ・見守り活動に関しては、介護保険法の生活支援体制整備事業の中では、日頃からの付き合いを大切に、ということが近年言われるようになった。介護保険のサービスを利用することで、これまでのつながりが途切れないような仕組みづくりと関係づくりをしておかなければならない、とうこと。 今あるつながりの掘り起こし、民生委員などの地域のマンパワーのほか、お裾分けするなどの何気ない日常的なつながりが見える化し、事業との連携をうまくとった仕組みができればい

	いと思う。
委 員	・実績報告書に記載のない地区があるがなぜか。
事務局	・弘前市社会福祉協議会が作成した報告書であるが、令和5年度に実績がない地区である。
委 員	・グループとあるが、協力者個人だけで行くときもあるのではないか。なるべくグループでやったり、民生委員・協力員などが一緒に対応したりと、重大なトラブルがないようにしていったほうがいい。
委 員	・実際に本活動に参加している。対象者は来るのを待っているが、同じ人だともめごともあるため、2年に1回は違う人のところに回るように代えている。 もし、対象者に認知症などの困りごとが出てきたときには民生委員につないでいる。
議 長	・訪問していく中で、様々な生活課題を持っている方がいると思うが、こうした方は困っている声をあげにくい側面も持っている。そのために、訪問する、アウトリーチがとても大事になってきている。
委 員	・一人で訪問している人もいるが、複数名で訪問するというルールを作っているところもある。また、週1回が難しい場合は複数人のグループ内でローテーションにより訪問することもある。町会活動を絡めるなど関係を膨らませているところもある。 対象者に変化があると包括支援センターなどにつなげたりするきっかけとなる。今はトラブルや不安なところはない。
委 員	● 3つの事業に共通して ・どの事業においてもそれぞれ担い手不足が課題で、今年だけでなく、例年継続的な課題であろうと感じる。 あらゆる手を尽くしている中でも課題が継続しているが、今後取組により担い手が新たに出てくる見通しがあると行政では判断しているか。 費用対効果を考えたときに、既存事業を一定程度やるとしても、いわゆる重層的支援体制整備に組み込んだ新たな体制整備を考えていく時期に来ていると思うが、いかがか。

事務局	・担い手不足については、引き続き地道な取組は継続していきたい。その上で、重層的支援体制で新たな担い手となる仕組みはこれから開発していく必要がある。 ただ、重層的支援体制の中でも人がいなければ、事業が回っていないため、大きな仕組みの中で地域福祉や生活課題に対応するものを考えていければと思う。
委 員	・消防団は若い方が入り、長くやっている。それを知っている人も入る。参加すればお金になるなどの金銭的なところや仲間づくりがしやすいといったメリットがあって積極的に入るのだと思う。 福祉においても、若い人が入りやすくポイント制など面白い組織づくりをすればいいと思う。
事務局	・お金がかかることについては市単独では難しいところはあるが、心理的な面などのメリットのある組織づくりというのは参考にしたと思う。
委 員	・消防団では報酬が出るというのが見える化されている。民生委員もわずかに報酬が出ていると思うが、若い人にはそういうアピールの仕方がいいのかなと思う。
委 員	・地区社協、民生委員などといった制度についてどれだけ市民が知っているかという点、意外と知らないように感じる。 私は、民生委員とふれあう機会があったため、民生委員になったし、自分の友達も児童委員になった。 知る機会があれば、やってもいいと思う人が出てくる可能性がある。もっと制度を周知することによって力を入れたらいいと思う。
事務局	(2) 生活困窮者自立支援制度について 案件（２）資料に基づき、本制度は弘前市総合計画にも掲載しており、意見をいただきたいことを説明。また、新規事業については、次年度以降、委員から評価をもらうことを説明。 【主な意見・質疑応答】

委 員	・この制度については、本当に困っている人のためには大事な制度である。市の支援や補助金は、申請・相談しなければサービスを受けられないので、もっと周知してほしいと思う。 ひろさき若者サポートステーションと市では連携しているのか。
事務局	・連携している。人によっては市とひろさき若者サポートステーションを併用していることもある。ハローワークにつなぐこともある。
委 員	・引きこもりはどのくらいいるか把握しているか。
事務局	・完全には把握しきれていないが、市民評価アンケートなどから狭義の引きこもりの可能性のある人は約1割、ここからさらに検証していけばもっと少なくなると思う。
委 員	・7年前にこの制度により企業に3日間体験に行った事例を知っているが、市で体験中に見に来ることがなく事後の報告だけで終わっていた。体験の間に変容することがあるので、こういった心の弱い人には、体験中も会社とのコーディネートなどで、もう少し助けてほしいと思った。
委 員	・アウトリーチは専門性の求められる難しい活動だと感じる。人材確保は予算との関連があるので、言いにくいですが、ぜひ有資格者については、臨床心理士の他にも司法・福祉などいろいろな専門職を配置してほしい。 また、有資格者の中でも、経験豊富で能力担保された方は金銭的に雇いにくいところがあるため、新人でも仕事が続けられるような研修体制も検討いただきたい。
委 員	・引きこもりの方への対応について冊子を作っている都道府県がある。冊子を作ったり配ったりすることが必要かと思う。
議 長	<案件まとめ> ・本日いただいた意見を参考に、各事業を改善していただきたいと思う。 6. その他 なし

事務局	事務局から協議会の会議録を HP で公開すること、次回の開催は令和 7 年秋ごろの予定であることを説明。 7. 閉会
その他必要事項	傍聴者：報道機関 2 名

令和6年度「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」
事業評価シート

事業名

民生委員等活動支援事業（民生委員協力員制度）
[担当：福祉部 福祉総務課]

本事業に対する評価・意見・改善点等（自由記載）
（地域福祉計画に掲げる目標に対し、本事業がどのように貢献しているか）

民生委員の負担を軽減するとともに、潜在的な民生委員候補者の確保につながっている。民生委員の担い手不足という課題に対し、継続することで中長期的に効果があるものである。

民生委員協力員に対しては、研修等によるサポートの強化が必要である。また、民生委員の不足の原因を地域ごとに把握することや民生委員の活動が地域住民にとって重要であることをより周知が必要であると考ええる。

事業名

弘前市社会福祉協議会除雪支援事業
[担当：福祉部 福祉総務課]

本事業に対する評価・意見・改善点等（自由記載）
（地域福祉計画に掲げる目標に対し、本事業がどのように貢献しているか）

生活道路の確保に特化しているが、今冬の豪雪を含め有効な制度である。除雪を通じた支え合いネットワークに貢献している。

一方、ボランティア不在の地域もあり、今後増加することが懸念される。現在の互助・共助では限界があり、公助として行政が実施する除雪・排雪の限界への理解、地域住民が行う作業への参加、自助としての除雪への意識づけを図る取り組みによって行政の負担軽減と市民の参加意識を醸成できると考える。

事業名	ほのぼのコミュニティ21推進事業 [担当:福祉部 福祉総務課]
本事業に対する評価・意見・改善点等（自由記載） （地域福祉計画に掲げる目標に対し、本事業がどのように貢献しているか）	
住民が支え合うという目標においては大きく貢献しており、必要・充実している事業である。 一方で、担い手不足・未実施の地域の課題が継続していると考ええる。 ボランティアになりやすい組織づくり、周知等による活動の可視化、集会所等での実施などの工夫が必要であると考ええる。 また、ボランティアに対してはネットワークの形成、相談業務等の研修が必要である。	